

平成30年度 第2回総社公民館運営推進委員会  
開催結果概要

全ての協議事項について、承認されました。

意見及び質疑応答の概要は以下のとおりです。

(D委員)

文化祭の中で、キッズダンスをやっていた。私も見に行ったが、場所が総社歴史資料館前の芝生だった。もっとみんなに見てもらった方が面白いという印象をもった。ダンスは海外でも盛ん。先ほど説明のあった来年度に向けての「国際交流」にもつながるのではないかと。音楽に合わせて身体を動かすというのは、見ている方もやっている方も楽しい。注目できる場所でやった方が良い。例えば、ステージ上での発表でもいいのではないかと。

(A委員)

ダンスはテレビ等では観ていたが、地域の子どもがあんなに元気に頑張っているのだということを初めて目の当たりにして、とても感動した。もっと広報もして欲しい。文化祭プログラムでもPRして欲しい。多くの人に見ていただければ、地域の活力にもつながる。

(事務局)

当公民館でも多くのキッズダンスグループが活動している。今回もその団体に協力をしてもらって実現した。

(E委員)

年間の行事報告があつて、多くの人が集まった事業をやってくれて、まず敬意を表したい。

これまで出席した公民館運営審議会の場合でも、各公民館から多彩な事業報告があつたが、総社公民館の特徴は、子育て・親子参加の事業は他館に比べて充実している印象をもった。特に親同士の交流事業は印象深く、素晴らしい取り組みだと思う。

公民館が地域により親しまれるという場であつて欲しいということ。また、先ほど話のあった国際交流、五輪を控える中で、もう一度総社の歴史・文化を新たな角度から見直して、一つのテーマに設定する。また、何より人と人をつなぐことを意識した事業のより一層の拡充を期待したい。

反省、要望としては、地域の人が気軽に入れる公民館。「地域の縁側づくり」なども、公民館運営審議会でも一つのテーマになった。見ているのと、当公民館も生涯学習の様々な分野で非常にいろいろと対応をしてくれて、サービスセンターの窓口をやりながらでもあつて大変だと思うが、なるべく公民館に来たい人を受け入れる体制に気を遣っていただければ、より一層の公民館の充実につながるのではないかとと思う。

(事務局)

公民館運営審議会でも話があったが、昨年夏に行った各公民館でのクールシェアの取り組みなどは気軽に公民館を利用するきっかけの一つになったとも思う。

気軽に受け入れるための取り組みは、掲示物などのハード面もしかり、加えて職員の意識改革も大切だと思うので、公民館職員一同で学んでいきたいところである。

(D委員)

県庁昭和庁舎のフリースペースなどは参考になるのではないか。いつも中高生が勉強している。あれこそ気軽に勉強しに行く場になっている好例。公民館でもこんな形で中学生などが利用してくたら良い。図書館に近くにあり、資料もあるし。勉強できるスペースとしてできたら面白い。

(A委員)

図書館（総社分館）は学習スペースとしては使ってはいけないと聞いた。そういう意味からも図書館と公民館がうまく連携できればよい。

(H委員)

この図書館はスペース的に学習スペースになるような机などが置けるようなスペースがない。勉強がしたいという学生はいろいろと場所を探している。総社歴史資料館の静かなところも学生が入っている。公民館も人の出入りはあるが、静かなところがあれば学習スペースとしては使える。

(J委員)

学校としては、公民館で親と子、親同士の交流の場を開いていただき有難い。以前は学校でも親子行事などの形で、親を学校に呼んで親子で何かやるという余裕があった。しかし、最近は授業時数の関係で、そのような行事を取る時間が難しくなっている。でもこういう事は非常に大事なので、学校でやるべきことと、地域でやって頂くことと、ある意味分けてやると学校としては非常に有難い。来年度は10連休のこともあり、授業時数はきついが、このような親子の活動をただゼロにするということではなくて、学校においても親と子の交流は大事なので、そこを持ちつつ公民館でもやっていただければ、大変有難いと思う。

虐待のことであったり、親自身が悩んでいて、なかなか相談できる場所がない。学校は敷居が高いというイメージがどうしてもあり、気軽に子育ての悩みを、就学前ではなく、例えば思春期を迎えている子どもをもつ親の悩みについて交流できる場などが、是非地域にあると、虐待予防につながるように思う。実際にプログラムを受けたくても働いていると受けられないとか、「夜ならば相談に行ける」などの声を聞いたので、そういった事業もやっていただけると、結局は子どものためになるのではないかと思う。

( J 委員)

年間行事予定があるが、学校でも9 - 1 1月は非常に行事が多い。運動会など、地域の行事に参加して欲しいと学校からも伝えてはいるが、なかなか忙しいようだ。スポーツをしている子どもたちは、大会などがあると参加できないという声も多い。今後の課題かと思う。学校としては、地域の行事に参加して、いろいろな人と触れ合うことが、子どものためにも良い勉強になると思う。

( A 委員)

地域としてできることもあるかと思う。「地域は地域の子どもを育てなくてはならない」という使命もあるので、公民館にご面倒をかけるが、さらに多くの人に利用してもらえるような、開かれた公民館という形で運営を考えて欲しいと思うので、よろしく願いしたい。

( E 委員)

コミュニティデザインはわかりやすいと評判がよい。より一層、この存在を町民の皆さんにも広めて欲しい。

( A 委員)

今年は2年に一度の秋元公歴史まつりの開催年。ということで今年も多くの方に参加していただくことになる。ただ、毎回1 1月の第2日曜ということで、開催日の変更ができないかという話も上がった。結果的には、今回の日程変更は難しいという結論になったが、開催年になってから日程を変えようといってもなかなか難しいと思うので、今回の秋元公まつりが終わったタイミングで次回の日程について検討することを、秋元公顕彰会の人にも話をしたところである。

(事務局)

先日、例年より早く秋元公歴史まつり実行委員会を開催した。その中でもPRを計画的に、積極的に進めていこうということになった。地域内外に総社地区の魅力を発信していきたい。

( B 委員)

総社公民館も開館からまだ7年しか経っていないが、今日の説明を聞くと、時代の変化の速さを痛感した。いろいろと変わってきていること、そんなことを感じて頭の整理をさせてもらった。